

【三】本文について、設問に答えよ。

尼君、髪をかき撫でつつ、「梳ることをうるさがり給へど、①をかしの御髪や。いとかなうものし給ふ《X》、あはれに後ろめたけれ。かばかりになれば、いとからぬ人もあるものを。故姫君は、十ばかりにて殿におくれ給ひしほど、いみじうものは思ひ知り給へりしぞかし。ただ今おのれ見捨て奉らば、②いかに世におはせむとすらむ。」とて、いみじく泣くを見給ふも、すずろに悲し。幼心地にも、さすがにうちまもりて、伏し目になりてうつぶしたるに、こぼれかかりたる髪、つやつやとめでたう見ゆ。

③生ひ立たむありかも知らぬ若草をおくらす露ぞ消えむそらなき
またみたる大人、「げに。」とうち泣きて、

④初草の生ひゆく末も知らぬまにかでか露の消えむとすらむ

と聞こゆるほどに、僧都あなたより来て、「こなたはあらはにや侍らむ。今日しも端におはしましたけるかな。この上の聖の方に、源氏の中将の、瘡病まじなひにもし給ひけるを、ただ今《Y》聞きつけ侍る。いみじう忍び給ひければ、知り侍らで、ここに侍りながら、御訪ひにもまうでざりける。」とのたまへば、「あな いみじや。いとあやしきさまを人や見つらむ。」とて、簾下ろしつ。「⑤この世にののしり給ふ光源氏、かかるついでに見奉り給はむや。⑥世を捨てたる法師の心地にも、いみじう世の憂へ忘れ、齡延ぶる人の御ありさまなり。いで御消息聞こえむ。」とて立つ音すれば、帰り給ひぬ。

あはれなる人を見つるかな、かかれば、このすき者どもはかかる歩きをのみして、よくさる⑦まじき人をも見つくるなりけり、たまさかに立ち出づる⑧だに、かく思ひのほかなることを見るよ、とをかしう思す。さても、いとうつくしかりつる児かな、何人ならむ、かの人の御代はりに、⑨明け暮れの慰めにも見ばや、と思ふ心深うつきぬ。

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えよ。

①聖 ②消息

問二 傍線部①の現代語訳として、適切なものは次のうちどれか。

ア おかしい髪ですぬ。

イ きれいな髪ですこと。

ウ ひどい髪なのですぬ。

エ 評判の良い髪ですこと。

問三 《X》《Y》に入るべき助詞をひらがな二字で書け。

問四 傍線部②の現代語訳として、適切なものは次のうちどれか。

ア どうしてこの世に生きていようとするのでしょうか。

イ どうやってこの世で生きていけば良いのでしょうか。

ウ どうしてこの世にいようとしているのでしょうか。

エ どうやってこの世に生きておられようとするのでしょうか。

問五 傍線部③の歌について、

(1)「露」の縁語を抜き出せ。

(2)「露」は誰をたとえているか。本文から人物を抜き出せ。